



芝山小だより

7月号

清瀬市立芝山小学校

校長 清水 一臣

<http://www.kiyose.ed.jp/>

児童の安全管理と危機対応 —昨今の事件・事故から考えられること—

校長 清水 一臣

新年度がスタートして3か月が経とうとしています。子供たちは新しい学年にも慣れ、元気に学校生活を送っています。これまで行われた主な校外学習としては、5月の1・2年生の航空公園遠足、3・4年生の日和山遠足がありました。両者とも上学年が下学年の世話をするなど、責任感や思いやりの心をもって行動する姿が様々なところで見られました。これまでの小規模校の特色を生かした縦割り活動の経験が生かされており、芝山小ならではの伝統が表れた遠足となりました。また、6月には6年生の日光修学旅行、5年生の立科移動教室が行われました。6年生にとっては最後の宿泊行事となりましたが、日光の様々な名所・旧跡を興味深く見学するとともに、男体山を仰ぎ見ながら戦場ヶ原をチームで協力し合って歩くことができました。5年生の立科移動教室は、地元産の野菜や味噌を使った「ほうとう」作り、長野県各地で産出された黒曜石の加工体験、2日目の2000m級の車山登山、キャンプファイヤー、鷹山ファミリー牧場での乳絞りやバーベキュー作りなど、まさに体験型の宿泊行事となりました。5・6年生どちらも宿舎内でのルールや時間を守り、協力し合って生活する姿が各所で見られました。

このように、今のところ芝山小学校では毎日子供たちの明るく元気な姿が見られ、順調に学校生活が進んでいますが、昨今の世間を騒がしている様々な事件・事故や災害を耳にすると、まさしく危険と隣り合わせの日々であることを改めて感じます。

5月には新潟県で小学校2年生の女子児童が下校途中に地域に住む男に殺害され、死体を遺棄されるという痛ましい事件がありました。下校途中の事件であり、容疑者の男が近所に住んでいたということが、この事件の恐ろしさをより一層増しています。本来地域で守られるべき子供が逆にその命を奪われ、学校や地域が守り切れなかったことは、下校時などの安全管理の難しさを痛感させられます。

また、先週の6月18日(月)の朝に発生した震度6弱の揺れを示した大阪北部地震によって、小学校4年生の女子児童が登校中に学校の壁が倒れて亡くなるという事故が発生しました。朝の挨拶当番でいつもよりも早く登校したために運悪く遭難したということを知り、悲しさが一層募りました。今、学校では、教育委員会の検査を受け、プールの壁の一部について支え壁を設置するための工事が行われています。丁度梅雨の合間の暑い時期とあってプールに入りたい子供たちには残念な思いをさせているところですが、安全第一ということで我慢をしてもらっています。大きな地震はいつ起こるかわかりません。学校におきましては、避難訓練をはじめとする子供たちの安全指導はもとより、日常から施設の安全点検を行っているところですが、今後も早めの対策を講じながら事故防止に努めてまいります。

6月26日(火)には、警察官から拳銃を奪い、学校の警備員を殺害後、学校の敷地内に侵入して取り押さえられるという事件が発生しています。子供たちは校長の指示で全員体育館に避難し、無事だったということでしたが、万一、校舎内に乱入するような事態になっていたらと想像すると身の毛もよだつほどの恐ろしさを感じます。2001年に起きた大阪教育大学附属池田小学校の悲惨な事件を彷彿させる事件でした。

学校は子供たちの命を預かる立場から、何より安全を第一に考え、様々な不測の事態を想定しながら安全管理と危機対応に努めてまいります。そのため、保護者や地域の皆様にはご協力をお願いをすることもありますが、このような趣旨をご理解いただき、安全・安心のための学校づくりにご協力いただきますようよろしくお願いいたします。